学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）経済的自立Ｂ	単位数	１単位	年次	２年次（４年制）
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生計を立てる方法も多様化の時代となっている。本授業では、社会を生き抜けるよう、「将来、経済的に自立し、豊かな人生を送るためのスキル」を身につけることを目的とします。座学だけでなく、疑似株式運用や屋台運営といった具体的なビジネスシミュレーションを通して、お金の流れ、利益の構造、リスク管理、そして働くことの意義を体験的に学びます。これらの活動を通じて、社会人として求められる計画性、協調性、そして目標達成に向けた「稼ぐ力」を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
単利・複利の計算、為替変動の影響、損益計算の仕組みなどの実務的な金融知識を習得し、ビジネスデータや家計の数値を正確に整理・集計することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
ビジネスシミュレーションの結果を数値に基づいて客観的に振り返り、成功や失敗の要因を特定した上で、次への改善策を他者に論理的に説明できる。
【学びに向かう力、人間性等】
チーム内で与えられた役割（会計・販売等）の責任を自覚し、他者と協力しながら、経済活動が社会や自己の生活に与える影響に興味を持って取り組もうとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	屋台運営における予算作成、株取引シミュレーションにおけるポートフォリオ構成など、実践的な経済活動に必要な知識と計算能力を正確に適用できている。	屋台運営での課題（例：原価高騰）に対し、多角的な視点から解決策を検討し、根拠をもって改善提案を行うなど、経済的な判断力を発揮できている。	チームでの役割を自覚し、屋台の企画・準備・運営に献身的に取り組み、失敗から学びを得ようと粘り強く努力する姿勢がみられる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	基礎経済と金融	・お金の歴史、金融の基本、インフレ/デフレの基礎知識。 ・株式、債券、為替の基本とリスク分散の考え方。 ・仮想の資金を使った株式運用シミュレーションを体験し、運用の記録と分析を行う。	a: 金融知識テストで、利子計算や為替の影響など、経済活動の基礎となる知識を正確に解答できている。 b: 運用レポートで、自身の売買判断の結果を数値に基づいて客観的に分析し記述できている。 c: シミュレーションにおいて、経済ニュース等の情報を自ら収集し、判断に活かそうとする姿勢が見られる。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	ビジネス実践	・グループを編成し、屋台・模擬店を企画・運営する。 ・企画書作成(コンセプト、ターゲット、メニュー)。 ・材料の調達と予算管理(原価率、人件費、諸経費の算出)。 ・販売活動(接客、プロモーション)。 ・最終損益計算と運営改善の反省会。	a: 最終利益計算において、売上・原価・利益を区分し、正確な算出・集計ができている。 b: 反省会において、販売実績と予測の差異を分析し、具体的な次回の工夫を表現できている。 c: チーム内での役割を責任を持って果たし、周囲と協力して運営の質を高めようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	キャリアと自立	・関心のある職業のリサーチと職業体験(職場見学・短期インターンシップ等)。 ・「屋台運営」で得た経験を、リサーチした職業に置き換えて分析する(例:原価率と給与の関係)。 ・将来の生活費や貯蓄目標を設定するライフプランニングを作成し、経済的自立に向けた具体的行動計画を立てる。	a: 関心のある職業の収入体系や必要経費について、具体的な数値を伴って整理できている。 b: ライフプランニングにおいて、20 代の生活設計を現実的な収支バランスに基づいて表現できている。 c: 職業体験を通じ、働くことの厳しさと楽しさの両面を理解し、自己の将来像を具体化しようとしている。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度